

労災診療費算定実務講座

令和7年度



公益財団法人 労災保険情報センター

第4編

手術料

公益財団法人 労災保険情報センター

◆ 四肢の傷病に対する手術の特例

- ・四肢加算(四肢の傷病に係る加算)
- ・手の指に係る手術の特例
 - 創傷処理(筋肉・臓器に達しないもの)
 - 骨折非観血的整復術
 - 同一手術野の取扱い
- ・手指の機能回復指導加算
- ・術中透視装置使用加算

四肢加算

1.5倍

鎖骨・肩甲骨・股関節含む



2.0倍

手及び手の指
(手関節含む)

創傷処理

皮膚切開術

デブリードマン

筋骨格系・四肢・体幹の手術

神経の手術

血管の手術

ポイント①

**形成の手術
は対象外！**

● ● ●
手の指に係る

● ● ● ● ● ●
[創傷処理(達しないもの)

骨折非観血的整復術

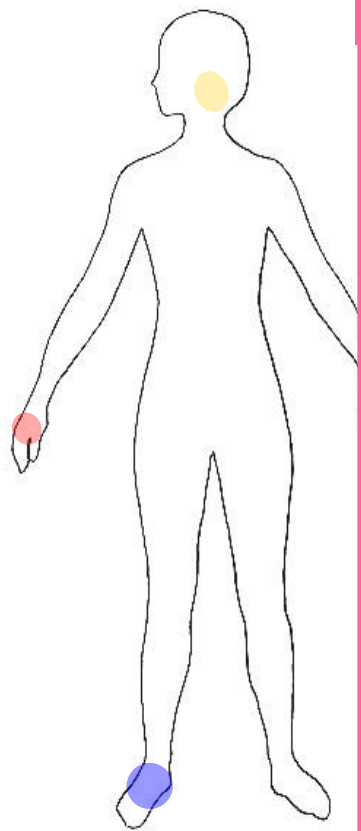
労災独自の点数で算定のため

対象外！

例題

K000 創傷処理(達しないもの)4cm
を行った場合

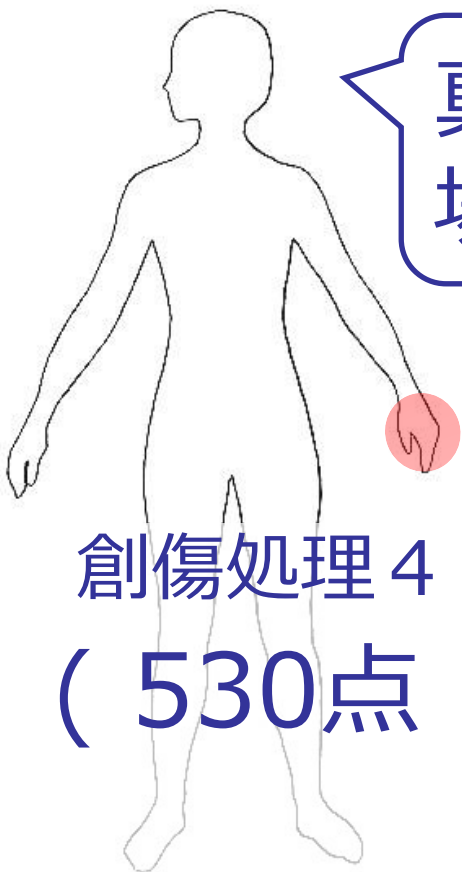
①右足背 ②右手背 ③顔面



労 災	健 保
① 右足背 四肢加算 $530\text{点} \times 1.5 = 795\text{点}$	530点
② 右手背 四肢加算 $530\text{点} \times 2.0 = 1,060\text{点}$	530点
③ 顔面 530点	530点

例題

手背に真皮縫合を伴う
K000創傷処理(達しないもの)4cmと
デブリードマンを行った場合



真皮縫合とデブリードマンを行った
場合、四肢加算は？

手技料の注加算・・・四肢加算可

創傷処理 4	真皮縫合 加算	デブリードマン 加算	四肢加算
(530点 + 460点 + 100点) × 2.0			
			= 2,180点

四肢加算

ポイント

四肢加算の対象ではないもの

通則の加算

通則 1 2（時間外等の加算）
は 四肢加算の対象！

医療機器等加算

特定保険医療材料料

薬剤料・輸血料・麻酔料

算定例 6

右肩甲骨にK 0 4 6 骨折観血的手術を
行った場合
〔閉麻 5 (口) (1 時間 3 0 分)
C型肝炎感染患者 の場合

労 災

健 保

骨折観血的手術 1 四肢加算
 $21,630 \times 1.5 = 32,445$ 点
 C型肝炎感染患者加算 1,000 点
 閉麻 5 (口) 6,000 点

 合 計 39,445 点

21,630 点
 1,000 点
 6,000 点

 28,630 点

通則 1 1 (C型肝炎感染患者加算)

麻醉料

四肢加算 不可

例題

左脛骨の粉碎骨折にK046骨折観血的手術と
創外固定を行った場合（時間外）

健 保

骨折観血的手術 2

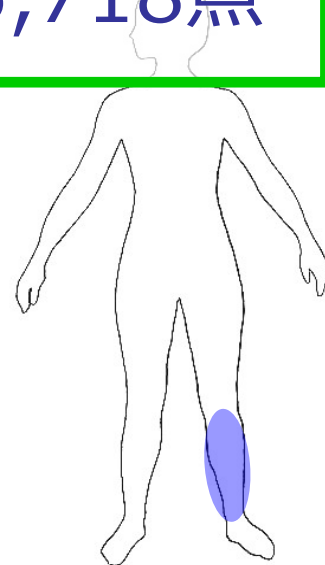
時間外加算

$$18,370\text{点} \times 1.4 = 25,718\text{点}$$

創外固定器加算

10,000点

35,718点



例題

左脛骨の粉碎骨折にK046骨折観血的手術と
創外固定を行った場合（時間外）

労 災

骨折観血的手術 2

時間外加算 四肢加算

18,370点 × 1.4 × 1.5 = 38,577点

創外固定器加算

10,000点

48,577点

通則 1 2 (時間の加算)

四肢加算 可

医療機器等加算(創外固定器加算) 四肢加算 不可

例題

左脛骨の粉碎骨折にK046骨折観血的手術と
創外固定を行った場合（時間外）

労 災

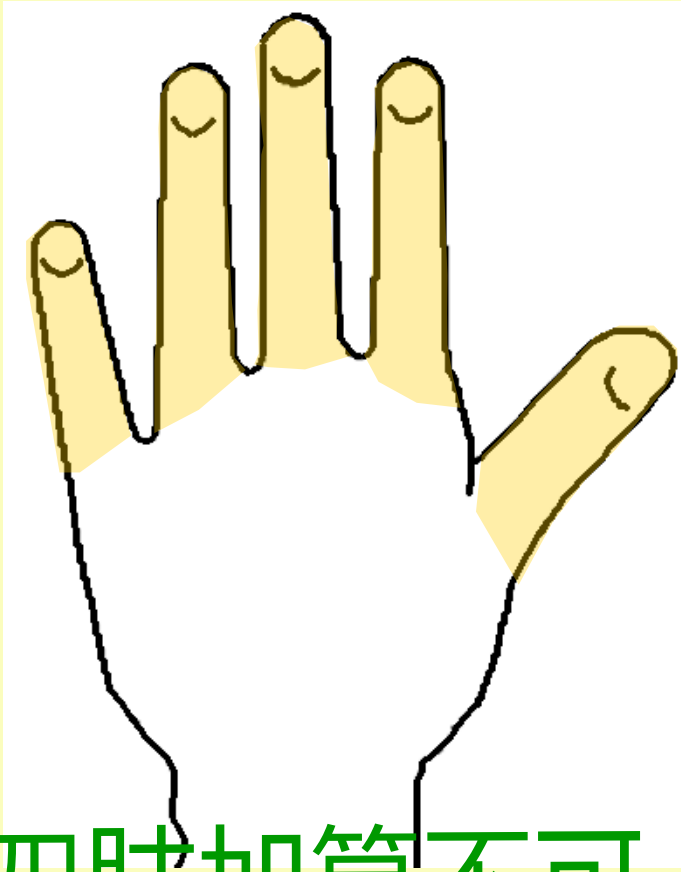
$$\begin{array}{rcll} \text{骨折観血的手術 2} & \text{時間外加算} & \text{四肢加算} & \\ 18,370\text{点} & \times 1.4 & \times 1.5 & = 38,577\text{点} \\ \text{創外固定器加算} & & & = 10,000\text{点} \\ \hline & & & \mathbf{48,577\text{点}} \end{array}$$

健 保

$$\begin{array}{rcll} \text{骨折観血的手術 2} & \text{時間外加算} & & \\ 18,370\text{点} & \times 1.4 & & = 25,718\text{点} \\ \text{創外固定器加算} & & & = 10,000\text{点} \\ \hline & & & \mathbf{35,718\text{点}} \end{array}$$

手の指に係る創傷処理

筋肉・臓器に達しないもの



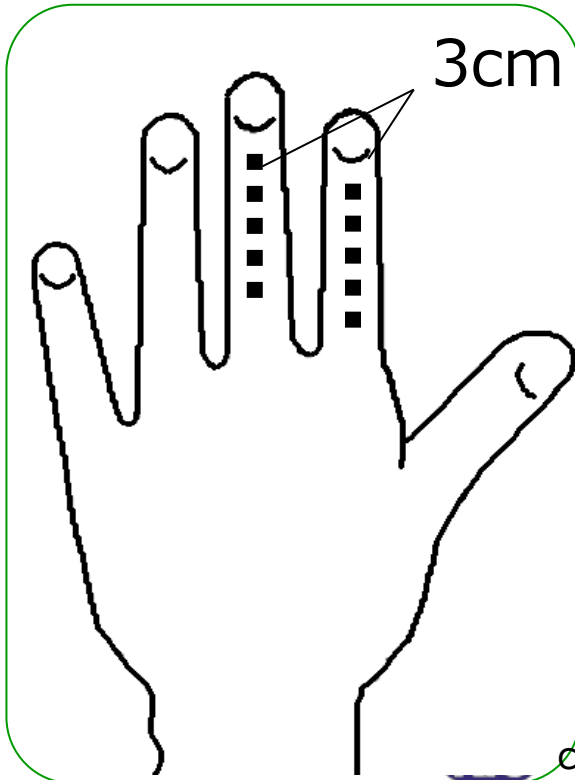
労災独自の点数

指 1 本	1, 0 6 0 点
指 2 本	1, 5 9 0 点
指 3 本	2, 1 2 0 点
指 4 本	2, 6 5 0 点
指 5 本	2, 6 5 0 点

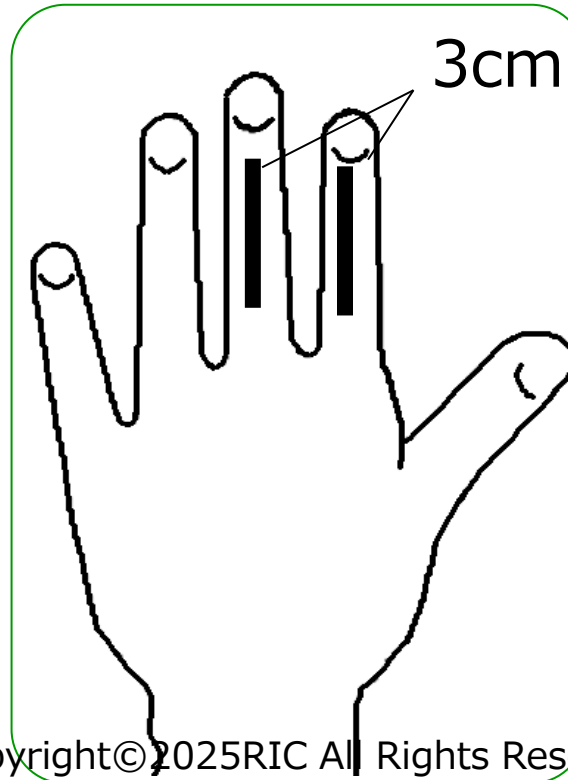
四肢加算不可！

第 2 指、第 3 指の挫創に対し、次のように
創傷処理とデブリードマンを行った場合

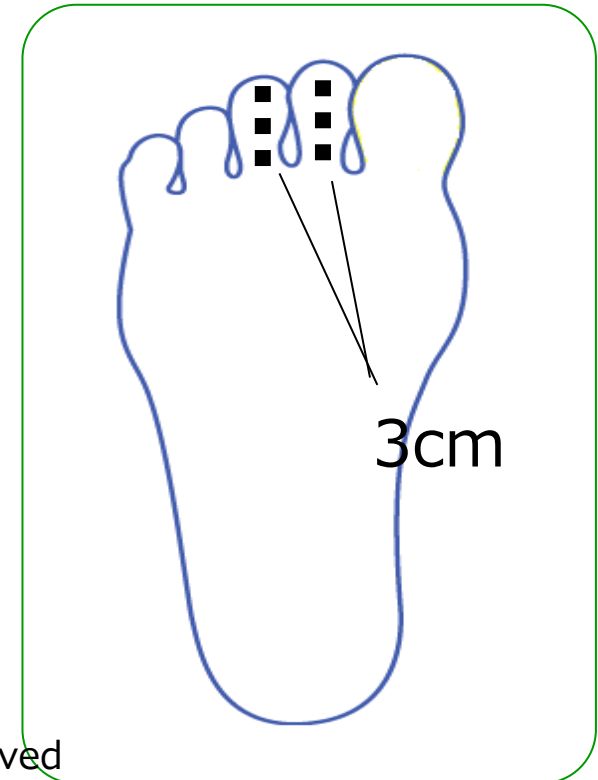
①手の指
達しないもの



②手の指
達するもの



③足の指
達しないもの

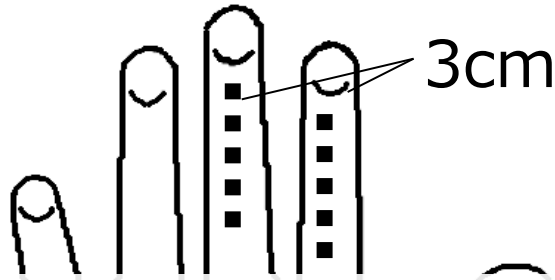


算定例 2

① 手の第2指、第3指の挫創に対し
創傷処理(筋肉・臓器に達しないもの) 3 cm、
デブリードマンを各々行った場合

① 達しないもの

➡ 労災独自の点数



創傷処理(達しないもの)指2本 1,590点

デブリードマン加算
100点

× 四肢加算
2.0 = 200点

合 計

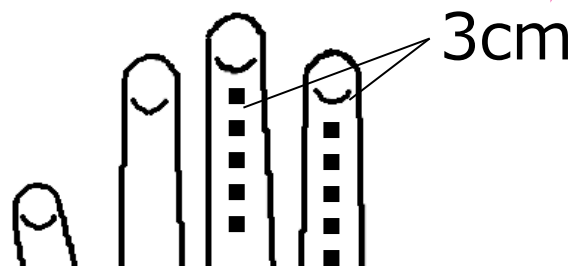
1,790点

算定例 2

② 手の第2指、第3指の挫創に対し
創傷処理(筋肉・臓器に達するもの) 3 cm、
デブリードマンを各々行った場合

(四肢加算)

② 達するもの  健保点数の2.0倍



創傷処理 2

デブリードマン
加算

四肢加算

$$\begin{aligned}
 & (1,880\text{点} + 100\text{点}) \times 2.0 \\
 & = 3,960\text{点}
 \end{aligned}$$

算定例 2

③ 足の第2趾、第3趾の挫創に対し
創傷処理(筋肉・臓器に達しないもの) 3 cm、
デブリードマンを各々行った場合

③ 足の指
(達しないもの)

(四肢加算)

➡ 健保点数の 1.5 倍



創傷処理5
(950点

デブリードマン
加算

+ 100点) × 1.5

四肢加算

= 1,575点

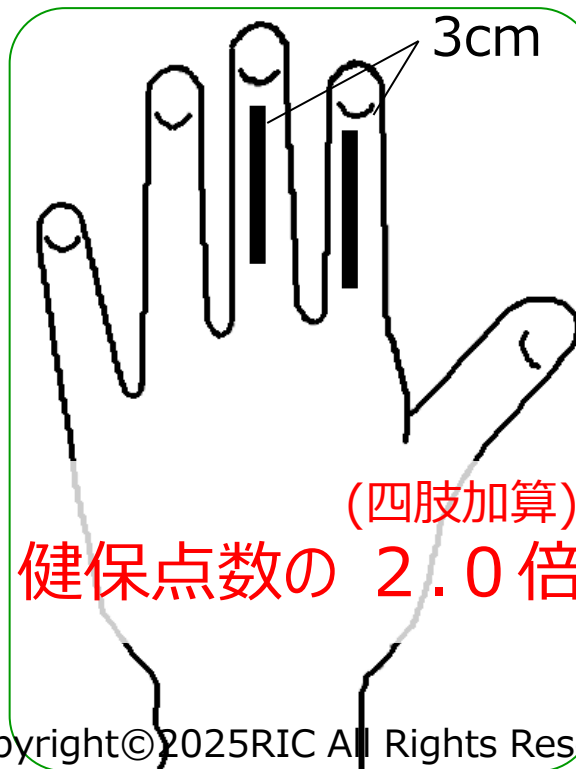


第 2 指、第 3 指の挫創に対し、次のように
創傷処理とデブリードマンを行った場合

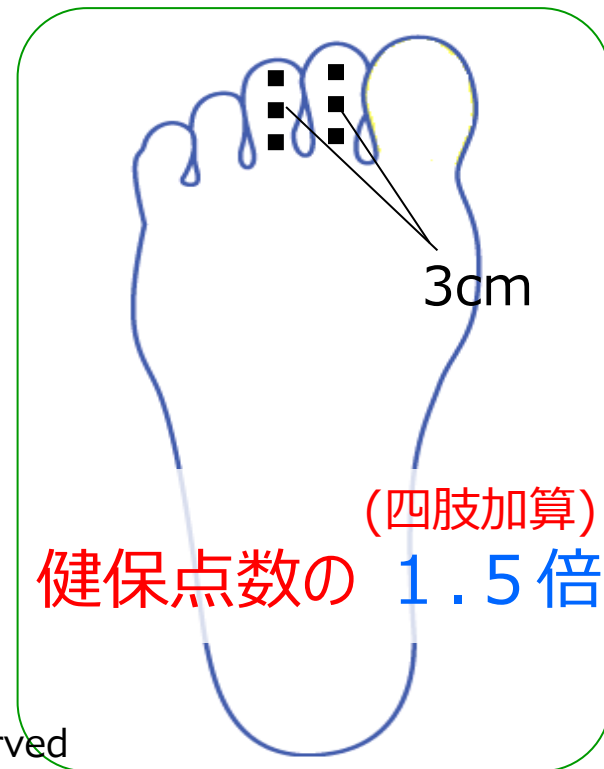
①手の指
達しないもの



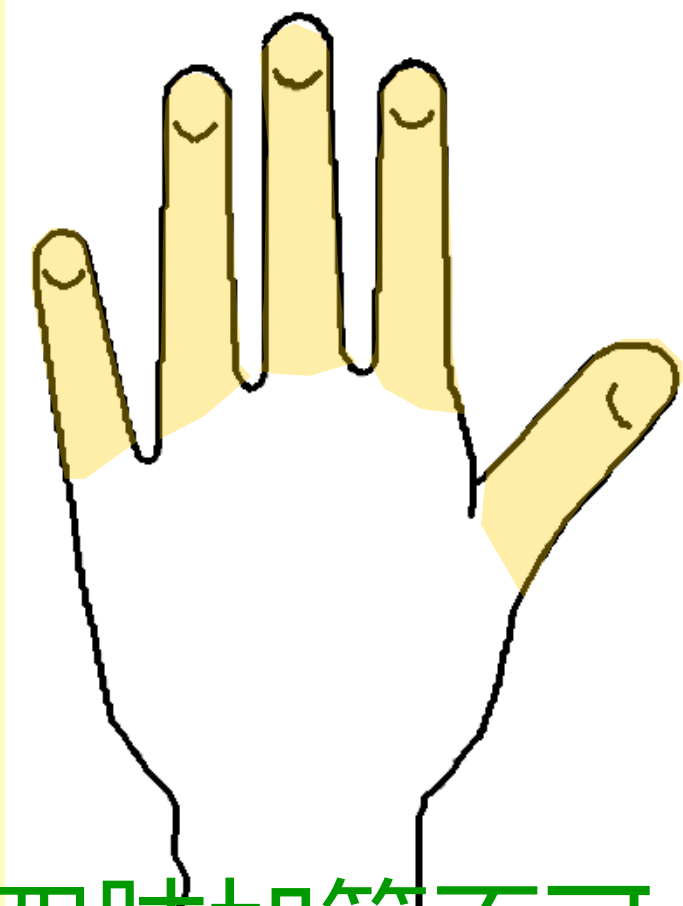
②手の指
達するもの



③足の指
達しないもの



手の指に係る骨折非観血的整復術



労災独自の点数

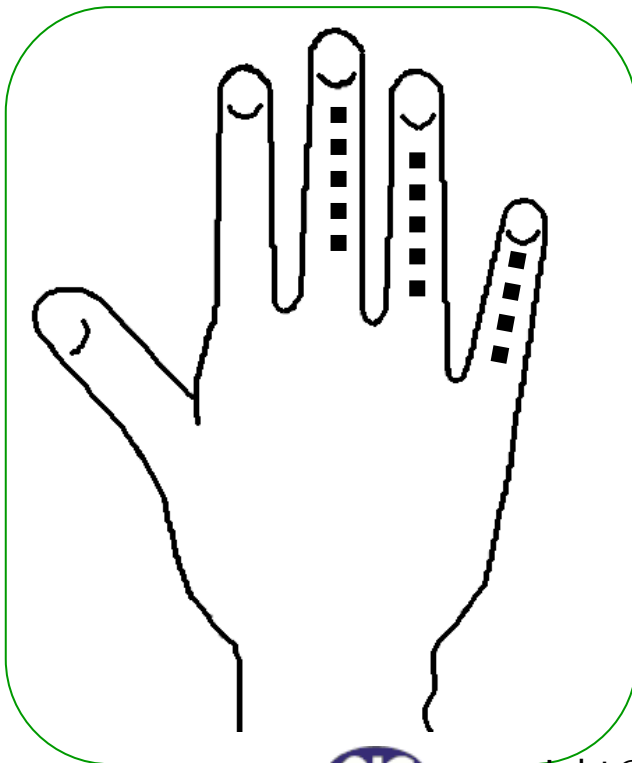
指 1 本	2, 8 8 0 点
指 2 本	4, 3 2 0 点
指 3 本	5, 7 6 0 点
指 4 本	7, 2 0 0 点
指 5 本	7, 2 0 0 点

四肢加算不可！

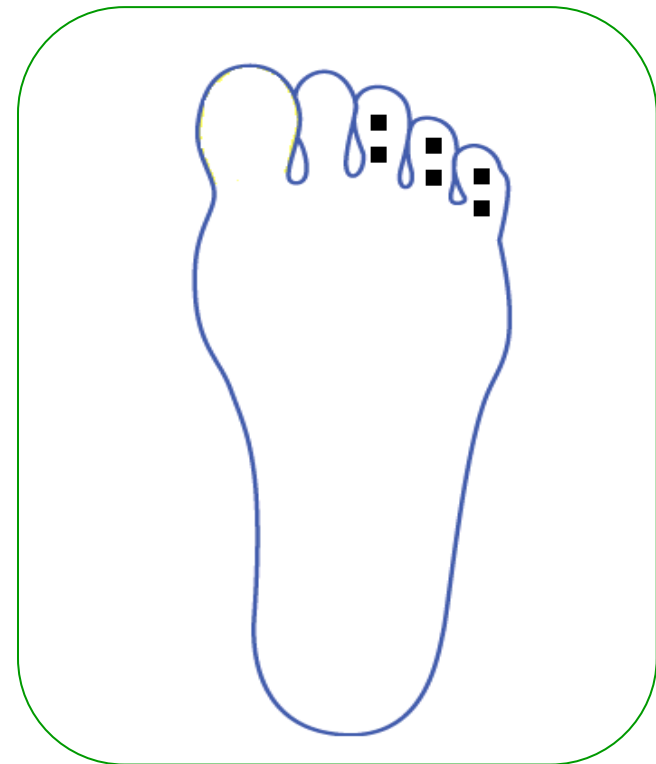
算定例 3・4

第3指、第4指、第5指の骨折に
K044骨折非観血的整復術を行った場合

算定例 3 手の指



算定例 4 足の指



手の第 3 指、第 4 指、第 5 指の骨折に対し
K044骨折非観血的整復術を行った場合

手の指

➡ **労災独自の点数**



骨折非観血的整復術（指 3 本） **5,760点**

足の第 3 趾、第 4 趾、第 5 趾の骨折に対し
K044 骨折非観血的整復術を行った場合

足の指



(四肢加算)



健保点数の 1.5 倍

骨折非観血的整復術 3
1,440点

四肢加算

×

1.5

=

2,160点

算定例 3・4

第3指、第4指、第5指の骨折に
K044骨折非観血的整復術を行った場合

算定例 3 手の指



算定例 4 足の指

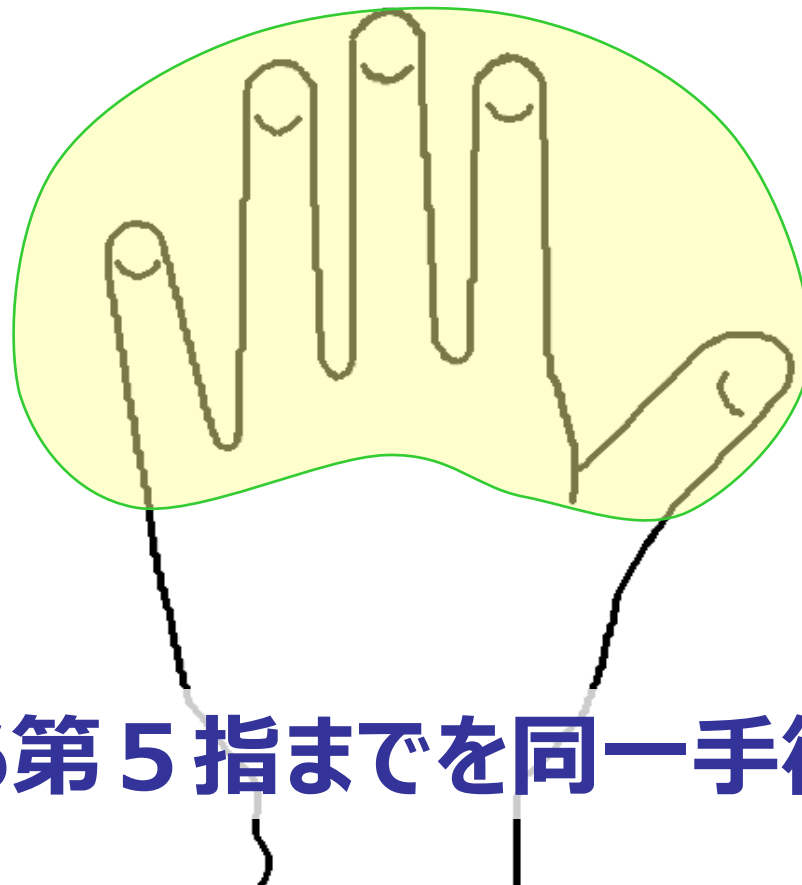


創傷処理と骨折非観血的整復術

	手の指に係る	四肢に係る (手の指以外)
骨折非観血的 整復術	労災独自の 点数	健保点数に 四肢加算
創傷処理 (達しないもの)		
創傷処理 (達するもの)		

創傷処理（達しないもの） 骨折非観血的整復術 手の指に係る同一手術野の範囲

健保



第 1 指から第 5 指までを同一手術野とする手術

創傷処理（達しないもの） 骨折非観血的整復術 手の指に係る同一手術野の範囲

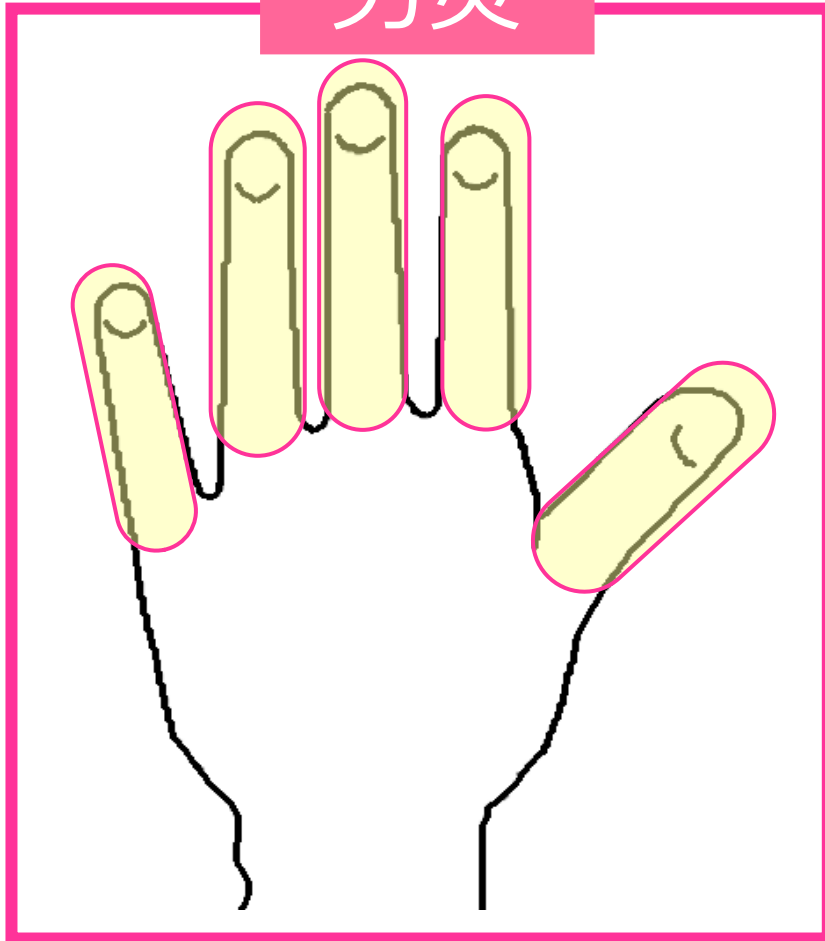
労災



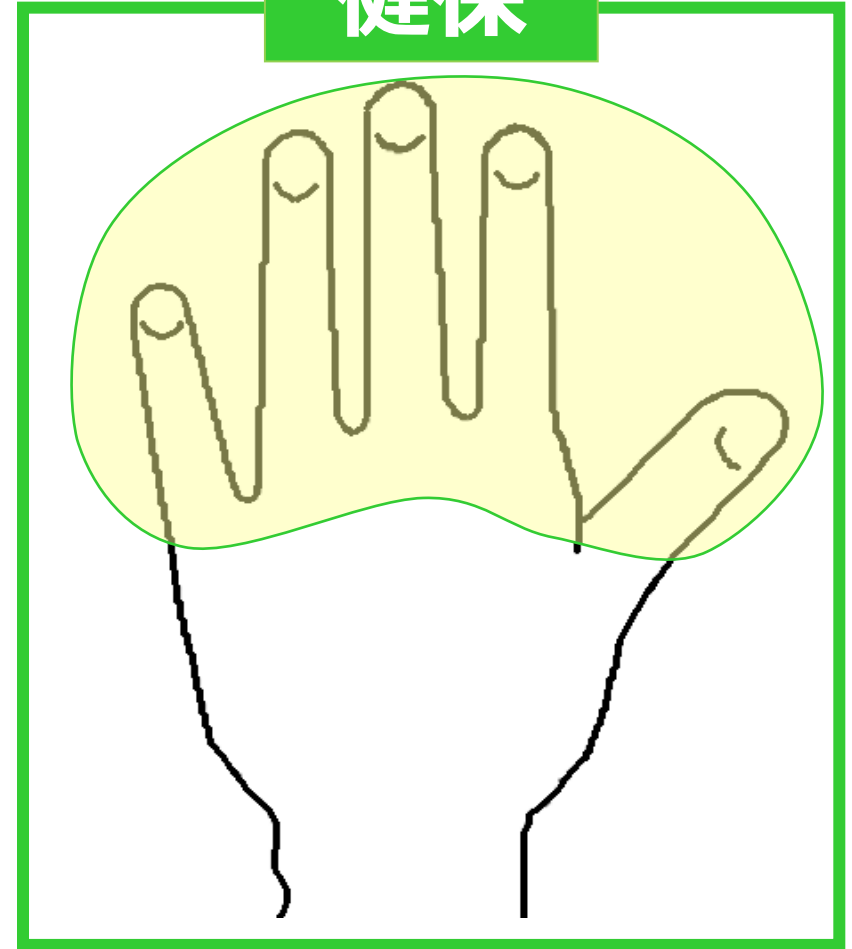
第1指から第5指（中手部・中手骨を含まない）
までを別の手術野とする手術として扱う

創傷処理（達しないもの） 骨折非観血的整復術 手の指に係る同一手術野の範囲

労災



健保



算定例 7

テキスト 166 頁

左手指に次の手術を行った場合

第1指 K044 骨折非観血的整復術

第2指 K000 創傷処理(達しないもの) 3 cm

労災



通則14 (4)-ア

骨折非観血的整復術

(指1本) 2,880点

創傷処理(達しないもの)
(指1本)

1,060点

合 計

3,940点

健保



通則14 (4)-イ

1,440点

~~530点~~

合 計 1,440点

例題

左手指に次の手術を行った場合

第1指 K044 骨折非観血的整復術

第2指 K000 創傷処理(達するもの) 3 cm

労災

通則14(4)-工

骨折非観血的整復術(指1本)

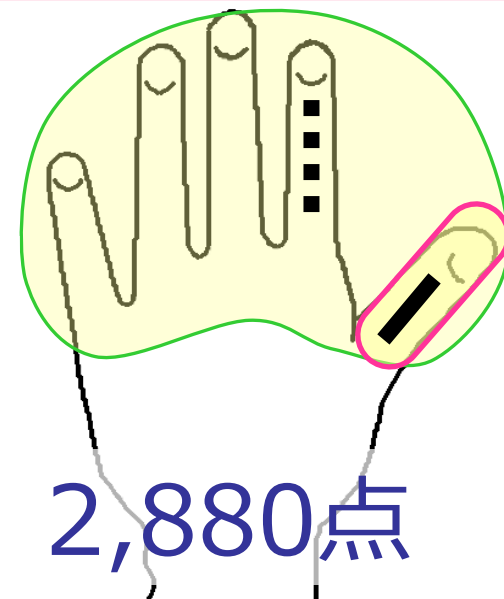
2,880点

~~創傷処理1(達するもの) 四肢加算~~

~~1,400点 × 2.0 = 2,800点~~

合 計

2,880点



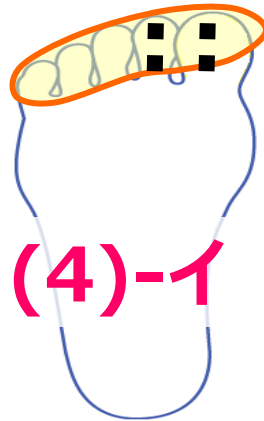
算定例 8

左足指に次の手術を行った場合

第1趾 K044 骨折非観血的整復術

第2趾 K000 創傷処理(達しないもの) 3 cm

労災



通則14 (4)-イ

骨折非観血的整復術

四肢加算

1,440点 × 1.5 = 2,160点

創傷処理(達しない)

四肢加算

~~530点 × 1.5 = 795点~~

合 計

2,160点



copyright©2025RIC All Rights Reserved

健保



通則14 (4)-イ

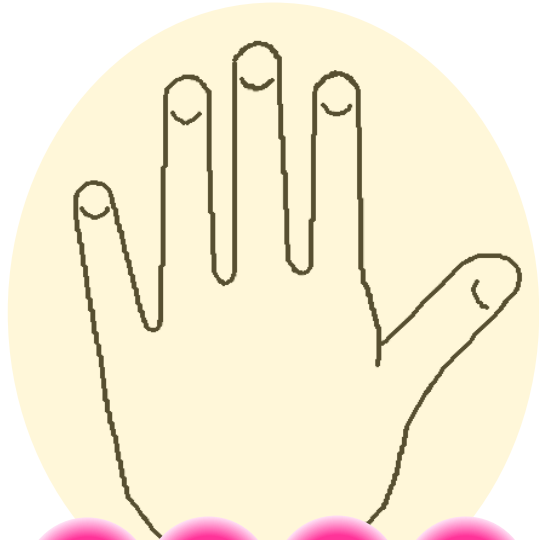
1,440点

~~530点~~

合計 1,440点

手指の機能回復指導加算

手関節以下



1 9 0 点（1 回限り）

創傷処理

皮膚切開術

デブリードマン

筋骨格系・四肢・体幹の手術

ポイント①

時間外等の加算

四肢加算

・・・算定不可

神経の手術

血管の手術

形成の手術

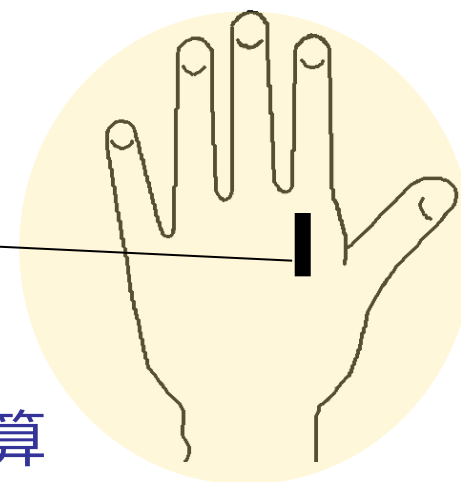
・・・対象外！

算定例3

時間外に次の手術・指導を行った場合

左手
第2中手骨[K046 骨折観血的手術
初期治療における機能回復指導

骨折観血的手術



骨折観血的手術3 時間外加算2 四肢加算

$$11,370\text{点} \times 1.4 \times 2.0 = 31,836\text{点}$$

機能回復指導加算

190点

合 計

32,026点

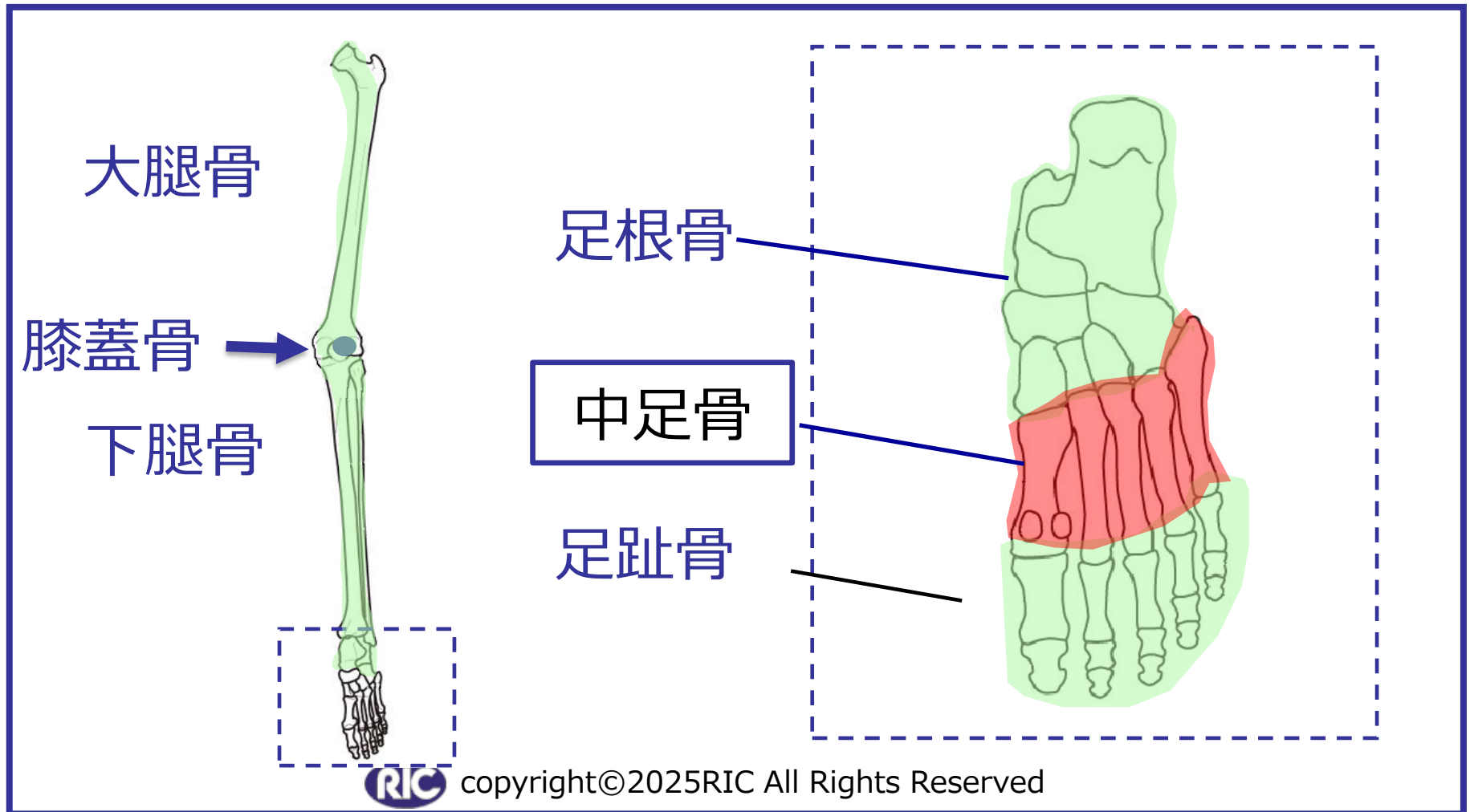
術中透視装置使用加算

2 2 0 点

	対象部位	対象手術
ア	大腿骨、下腿骨、 上腕骨、前腕骨、 手根骨、中手骨、 手の種子骨、指骨、 足根骨、膝蓋骨、 足趾骨、 中足骨、 鎖骨	骨折観血の手術 骨折経皮的鋼線刺入固定術 骨折非観血の整復術 関節脱臼非観血の整復術 関節内骨折観血の手術
イ	脊椎	経皮的椎体形成術 脊椎固定術、椎弓切除術、 椎弓形成術

術中透視装置使用加算

220点



術中透視装置使用加算

220点

	対象部位	対象手術
ウ	骨盤	骨盤骨折非観血の手術 腸骨翼骨折観血の手術 寛骨臼骨折観血の手術 骨盤骨折観血の手術 (腸骨翼骨折観血の手術及び 寛骨臼骨折観血の手術を除く)

術中透視装置使用加算

220点

ポイント①

四肢加算 算定不可

ポイント②

① 手根骨、中手骨、手の種子骨及び指骨 又は 足根骨、足趾骨及び中足骨について、複数の手術を同時に行い、術中透視装置を使用した場合、併せて1回の算定

② 右手、左手 又は 右足、左足にそれぞれ手術を行い、術中透視装置をそれぞれの手 又は 足に使用した場合、それぞれ1回まで算定

算定例2

次の手術を行った場合

左第2指基節骨
左第4指末節骨
右第3指中手骨

K046 骨折観血的手術
(術中透視装置使用)

左第2指 } 骨折観血的手術3 四肢加算
左第4指 } 11,370点 × 2.0 × 2
= 45,480点

右第3指 11,370点 × 2.0 = 22,740点

術中透視装置
使用加算 220点 × 2 = 440点

合 計

68,660点

第5編

その他の特例

公益財団法人 労災保険情報センター

◆処置及び手術に関する特例

- ・ 初診時ブラッシング料
- ・ 固定用伸縮性包帯
- ・ 頸椎固定用シーネ
- ・ 鎖骨固定帯
- ・ 膝・足関節の創部固定帯

初診時ブラッシング料

91点

同一傷病につき1回(初診時)

ポイント

① 四肢加算 算定不可

② 時間外加算 算定可

③ デブリードマン

(デブリードマン加算含む)

重複算定不可

初診時ブラッシング料を含む処置、手術の点数の合計が
150点以上 の場合
に限る！

算定例4①

初診時(時間外)に左手背に
創傷処置10cm²、ブラッシングを行った場合

創傷処置1 四肢加算 ブラッシング料

$$52点 \times 2.0 + 91点 = 195点 > 150点$$

⇒ 時間外加算 算定可

四肢加算 時間外加算

$$\text{創傷処置1} \quad 52点 \times 2.0 \times 1.4 = 146点$$

初診時ブラッシング料

$$91点 \quad \times 1.4 = 127点$$

合 計

273点

固定用伸縮性包帯

実費相当額 (購入価格を10円で除して得た点数)

医師の診断に基づき、処置及び手術において、
頭部・頸部・躯幹・四肢に使用を必要と認めた
場合

ポイント

湿布・ガーゼ等が
ずれないように巻いた
場合は 算定不可！

- ①患部の固定のために
使用した場合
- ②医師が必要と判断した場合
頸椎固定用シーネ等と併せて算定可

頸椎固定用シーネ、鎖骨固定帯 膝・足関節の創部固定帯

実費相当額（購入価格を10円で除して得た点数）

医師の診断に基づき、使用が必要と認められる
場合に算定可

ポイント

- ① 頸椎固定用シーネの費用と「腰部、胸部
又は頸部固定帯加算」は 重複算定不可
- ② 医師が必要と判断した場合
固定用伸縮性包帯と併せて 算定可

頸椎固定用シーネ、鎖骨固定帯 膝・足関節の創部固定帯

実費相当額 (購入価格を10円で除して得た点数)

健保点数表の

腰部、胸部又は頸部固定帯加算(**170点**) が算定
できる場合

- ◇ 実費相当額 > 170点 ⇒ 実費相当額を算定
- ◇ 実費相当額 < 170点 ⇒ 170点を算定



頸椎固定用シーネ、鎖骨固定帯、
膝・足関節の創部固定帯も、同様の取扱い

◆その他の特例

- ・労災電子化加算

労災電子化加算

5点（内訳書1件につき）

対象

電子情報処理組織の使用 又は
光ディスク等を用いた診療費請求を
行った場合

（令和8年3月診療分まで）

労災診療費算定実務講座

令和7年度



公益財団法人 労災保険情報センター